

比布町地域おこし協力隊通信

比布町で活動する地域おこし協力隊の皆さんを紹介します。

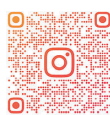
協力隊特集 VOL.4

ふるさとのいちごを
次の100年へ

加地 道太郎 さん
株式会社びっぴいちごでいちごの振興に
取り組んでいます。



Instagram
アカウント



@PIPPUICHIGO.MICHITARO

株式会社びっぴいちご

町内農家からいちご栽培を
学びながら、来年のいちご狩
り農園開園に向けて、農園づ
くりやびっぴいちごの振興に
取り組んでいます。

故郷へUターン

比布町で生まれ育った加地
さんは、小・中学生のころ、
野球とスキーに明け暮れて
いました。大学進学後は旭川
市内の学習塾に約10年間勤務
し、教室長を務めました。そ
の後には家業を手伝うため奈良
県へ移り、宿泊施設の管理体
制づくりやインターネット販
売の仕事をしていました。す
ぐに比布へ戻るつもりはあり
ませんでしたが、「両親を喜
ばせたい」という思いと協力
隊の話が重なり、Uターンを
決意しました。

「農業者の偉大さを実感」

枯れた葉を一枚ずつ取る中
腰の作業、炎天下での土づく
り、雨が降らない日は水や
り、長年オフィスワークを続
けてきた加地さんには体力的
にこたえる日々でした。「あ
まりにも農業の大変さを知ら
なかったと身をもって感じま
した。何十年続けても試行錯
誤する農家の方の姿に、尊敬
の気持ちでいっぱいです」と
振り返ります。

地域に支えられた2万株

8月8日、来年のいちご狩
りに向けた苗の定植が始まり
ました。初日に植えたのは6、
500株。その後も作業を続
け、8月15日で2万株すべて
を植え終えました。「やっと
来た、という気持ちでした。
これまでは勉強や準備が中心
だったので、いよいよ始まる
というワクワク感がありまし
た」同時に「苗を絶対に枯ら
してはいけないプレッシャー
も感じています」と真剣な面
持ちで話します。定植直後は
水管理に悩みましたが、次第
に苗が起き上がり、新芽が出

てくる姿を見て、ようやく安
心できたといいます。定植前
の準備、定植には、町内農家
や地域の皆さん、役場職員な
ど、多くの人の協力がありま
した。作業後もさまざまな方
が圃場を訪れ、苗の様子を気
にかけてくれています。

「こんなにも助けてもらえ
て、感謝しかありません。こ
の支えに、どういう形で恩返
しできるかを考えています」。

いちごの町の新たな第一歩に

加地さんがまず目指すの
は、いちご狩り農園の運営を
形にし、町内のモデルとなる
農園をつくること。その先に
は、出荷用いちごの栽培や、
いちご狩りだけに頼らない持
続可能な会社づくりも見据え
ています。また、「子どもた
ちが胸を張って『比布はいち
ごの町です』と言えるように
したい」と意気込みます。

「今よりも大変な時代から、
先人たちが100年にわたってつ
ないできたもの。自分が火付
け役になれるか不安もありま
すが、次へつなぐ第一歩にな
りたいです」と力強く語って
くれました。



令和8年8月8日出いちごの苗の定植を実施



いちごの苗の定植の様子



朝採れいちごを販売